

どうとくのひろば



本年度も道徳だより「どうとくのひろば」を発行します

私たちの生活に多大な影響を与えた新型コロナウイルスも、徐々に落ち着きを見せ始め、以前の生活が戻りつつあります。5月8日には第5類へと移行し、学校でも思い切り友達との交流を楽しんだり、活動に打ち込んだりする子供たちの姿が見られます。苦しい時代を知ったからこそ、子供たちはこれまで当たり前前に感じていたことは当たり前ではないと感じたり、新たな価値観に触れたりしていく中で様々な気付きや学びが生まれるのではないのでしょうか。自分が元気で生活できる日々やそれを支えてくれている周りの人などに感謝の気持ちを抱きながら生活できると、幸せな気持ちでいられそうですね。

この「どうとくのひろば」では、本校での各学年での道徳の授業の様子や、子供たちの心が育まれた場面などを随時お知らせしていきたいと思っています。また、道徳教育についてのご質問・ご感想は、このおたよりの一番下にお書きいただき、切り取って担任までお寄せください。学校と家庭をつなぐ「どうとくのひろば」になればと考えています。

附属坂出小学校の道徳の授業で大切にしていること

毎年第1号では、道徳教育で大切にしていることをお知らせしております。

道徳教育は、子供たちが未来を切り拓き、よりよく生きていくための道徳性を養うことを目標としています。そのため、道徳科の授業では、次の四つを大切にしています。

- ・道徳的に大切なこと（正直、友情、謙虚さ、礼儀…）が分かる。
- ・自分のよさを実感したり、自分の課題を見つけたりする。（よさに気付くことが大切です！）
- ・友達と話し合うなどして、いろいろな考え方に会ったり、物事をいろいろな角度から考えたりする。
- ・自分はこれからこうしていきたいという「自分の生き方」について深く考える。

そして、本校では特に「まわりの人たちと関わっていくときに大切なこと」を重点項目とし、自分まわりの人たちとどのように関わっていきたいかを深く考え、お互いのよさを認め合い、よりよく生きるために大切なことを考えられるようにすることを目指しています。

道徳科の評価について

子供たちの心の成長を数値によって評価するというのは適切ではありません。ですから、数値によって道徳科の成績をつけるという事は行いません。子供たちがノートに書いたことや発表したことなどを基にしなが、子供たちの心の成長の様子を記述しています。そして、子供たちのよさや成長を認め、励ますようなメッセージを伝えます。道徳科の評価については、子供たちと共に保護者・教師が子供たちの成長を喜ぶことが大切です。このおたよりや学びのたよりを通して、お知らせしていきます。

子供たちが豊かで柔軟な心をもって、適切な判断をしていけるよう、学校と保護者の皆様の温かいまなざしで、子供たちを共に見守っていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

----- 切り取り -----

道徳だよりへのご質問・ご感想

() 年 () 組 児童名 ()

